

一般質問通告書（一問一答方式）

質 問 者

令和5年3月定例会

議席番号4番
高桑 佳子議員

1. 町主導でオンライン診療の普及促進を

当町における診療体制の維持・充実については、かねてより危惧されており、対策が望まれている。地域医療をこれからも守っていく方策を模索するとともに、医療体制が行き詰まったとしても、町民が安心して医療を受けられる体制を整えておくために、町長の考えを伺う。

(1) オンライン診療の可能性・有効性について、町長はどのような考えを持っているか。

(2) 無医村となった長岡市山古志地域では厚生連長岡中央総合病院と連携して月2回の診療と月1回のオンライン診療を行なっている。当町は2箇所の医院があり、山古志地域とは状況が異なっている。

また、オンライン診療は既にかかなりの広がりを見せているが、パソコンやスマートフォンの扱いに慣れない方も多く、町民の選択に任せているだけでは当町で取扱が浸透しづらいと考える。町主導でオンライン診療の普及促進を考えられないか。

2. 高齢者・一人暮らしの方への見守り強化を

今冬、一人暮らしの方が自宅で亡くなられたケースが何件かある。体調が悪くとも、助けを求められないケースもあると思う。緊急通報装置と見守り体制について伺う。

(1) 現状の見守り体制について伺う。

(2) 緊急通報装置は対象者が原則65歳以上であるが、それ以外の世帯でも希望されれば利用できるよう柔軟に対応できないか。

(3) 緊急通報装置で、親族に元気とのメールを届けられるサービスを付け加えることは出来ないか。

一般質問通告書（一問一答方式）

質 問 者

令和5年9月定例会

議席番号4番
高桑 佳子議員

1. 特別支援の理解に関する進めかたについて

国や県の特別支援教育においては、昨年度「インクルーシブ教育システムの構築」を目指して行動計画の策定が求められ、進んできている。

当町の教育環境は、出生前幼少期から学校教育のみならず、高校・大学等・また若者支援においても県内では屈指の支援体制がとられており、今後さらに進められていくものと考えている。

しかし、インクルーシブな社会・共生社会の実現においては、未だ課題として残る周囲の理解と協力が必要不可欠だと考える。他に先んじて、これを実現するために、当町はどのように進めていくか、考えを伺う。

- (1) 近年増加傾向にある、発達障がいをはじめ、様々な困難を抱える児童生徒やご家族について、これまでの支援と今後の計画について伺う。
- (2) 学校現場においては既に、インクルーシブ教育を意識した取り組みがなされているが、現在の状況を伺う。
- (3) 当町の県立出雲崎高校は、存続について危惧されることもあるが、特色ある高校として素晴らしい教育を行っている。今後、出雲崎高校と協力していくべきと考えるが、具体的な方策はあるか。
- (4) 他の自治体では、インクルーシブ社会実現のための条例制定の動きが加速している。地域・町民の理解を深めて意識を高め、全ての人に優しい町とするために、条例制定を進める考えはないか。